

事前評価報告書（五ヶ瀬自然学校用）

事業名: 人口減少化により孤立した集落の関係人口による課題解決プロジェクト（※データより自動記入）

実行団体: 特定非営利活動法人五ヶ瀬自然学校（※データより自動記入）

資金分配団体: 特定非営利活動法人 宮崎文化本舗（※データより自動記入）

実施時期: 2021年4月～2024年3月（※データより自動記入）

対象地域: 五ヶ瀬町、高千穂町、日之影町、椎葉村、諸塚村（※データより自動記入）

直接的対象グループ: 世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域の集落・住民

間接的対象グループ: 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校、高千穂高校在校生、卒業生、地方創

生系学部の大学生、各町村の行政担当課（協力）（※データより自動記入）

I. 概要

事業概要	<ul style="list-style-type: none">世界農業遺産に認定されている高千穂郷・椎葉山地域には、昔ながらの山側の農村文化が色濃く残っている。人情味あふれる人々とふれあい、心に残る深い体験をしたいと願う外国人、または都市部に暮らす日本人は多いだろう。孤立した不便な集落に住み、急激に人口が減って行く中でも、農林業や観光業など、複合的に仕事を作り出しながら力強く生きている。その暮らしこそが魅力であり、この地域の価値である。ありのままの暮らしを体験する生活・文化・農業体験や、農村の暮らしの中を歩いて巡るフットパス（イギリス発祥の歩くプログラム）など、その集落にあったプランを住民と共に作り上げ、先ずは定期的にイベントを開催する。動画や、ホームページ（英語版も含む）、SNSなどのメディアツールを駆使し情報発信を行う。このエリアは大学が近くにないが高校は五ヶ瀬中等と高千穂高校の2校ある。両校とも総合学習の時間などで地域課題探求学習を行っている。1人～3人程度のグループを形成し、自分たちでテーマを探り、地域住民に話を聞いたり、協力を仰ぎながら研究を進めている。そこで、「孤立した集落の課題解決」をテーマに、両校の在校生や卒業生、地方創生系学部の大学生などをターゲットに、政策提案コンテストを開催し、優秀提案については予算を付けて実践活動を行う。
中長期アウトカム	<ul style="list-style-type: none">世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域の集落住民が関係人口と共に継続的に集落活動を行い交流することで、伝統的な暮らしや文化が評価され生きがいとなり、孤独感や孤立感が解消されている。関係人口を増やす活動により新たな仕事や魅力が集落内に生まれ、働く場所が増えることで定住人口が増えている。
短期アウトカム	<ul style="list-style-type: none">住民と関係人口が継続的に交流している状態新規事業創出や新たなネットワーク形成していくことを目的に、本事業を通じて、五ヶ瀬自然学校スタッフが企画力やコーディネート力を身に付け、各団体へ中間支援できる状態になっている。

事業の背景

(1) 社会課題	宮崎県北部山沿いの五ヶ瀬町、高千穂町、日之影町、椎葉村、諸塚村は2015年に世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域として認定された。しかし、若い世代は、高校・大学・就職と人生の選択をしてゆく過程でこの地域を離れ、その後も仕事や住宅が無いなどが原因で帰ってくる若者は僅かである。合計特殊出生率は2.5人程度と非常に高い水準にあるが、適齢期の人口が少ないことで子どもも減少している。同時に高齢化が進み特に農業の担い手が不足しており、急激に耕作放棄地が増加している。
(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況	<ul style="list-style-type: none">高千穂町役場内に世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会を設置し、世界的価値を活かした、5町村の総合的な取り組みを行っている。一般社団法人ツーリズム高千穂郷が高千穂町内に事務局を置き、5町村の観光振興を担っている。5町村の行政担当課および観光協会も独自の活動を行っている。

評価実施体制

	評価担当分野	役職
	①、④	五ヶ瀬自然学校理事長
内部	②、③、④	五ヶ瀬自然学校職員
	②、③	五ヶ瀬自然学校職員
	②、③	五ヶ瀬自然学校副理事
	②、③、④	五ヶ瀬自然学校職員
外部	②、③	別紙名簿参照
	④	同志社大学大学院 総合政策科学研究科 ソーシャル・イノベーションコース 教授
	①	高千穂高校 校長

評価実施概要

評価実施概要	（評価計画内の事前評価）①～④について、それぞれインタビューを行う。①については高千穂高校に定量調査を行う。
自己評価の総括	調査は内部スタッフおよび外部専門家を動員し短期間で行う。概ね予想していた結果となった。本活動を推進する上で重要な集落の中心人物21名に意見を聞くことで、地域課題および本事業で何をすべきか共有することが出来た。今後の活動に大いに役立つ事前評価を実施することが出来た。

評価結果の要約

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	高い	選択した評価小項目「課題の問題構造を十分に把握しているか」を調査するために、関係者へのインタビューおよび定量調査を行った。これにより、当初「地元の高千穂高校への進学率が下がっている」という仮説を持っていたことに対して、平成20年より減っていることが明らかになった。何故、減ったのかについては、全国的な人口減少により、平成10年から入学者が減りつづけ、平成20年に学区制が廃止されたことで、地元からの入学者が減ってしまった。昭和46年には1,250名が100%地元から入学したが、令和3年は277名で27%である。この調査結果をホームページや行政、高校の情報誌などで公表することで住民と共有したい。
	②特定された事業対象の妥当性	高い	事業の対象者である集落住民が地域課題について共有出来ているのかという点を明らかにするために、5町村の中心的な集落住民21名にインタビューを行った。その結果、病院や消防署が近くにない、公共交通が少ない、交流の場が少ない、住宅が無い、田畑や森林が荒れて来ている、人で不足、若者が働きたい仕事が無い、移住者への支援が少ない、伝統の継承が出来ないという意見があった。農村集落に若者が住めるようにすることが全ての課題解決につながるということを改めて確認出来た。本事業を進めることで達成すべき目標が明確となった。
事業設計の分析	③事業設計の妥当性	概ね高い	事業の対象者である集落住民やその活動を支えようとする学生が本事業を行う事で実現する状態が望ましいものと思っているのかという点を明らかにするため、5町村の中心的な集落住民21名にインタビューを行った。その結果、集落住民からは、観光地ではない集落に世界中からお客様が来ることで収益が増えるのであれば大いに歓迎する、但し感染症対策は徹底して欲しい、あまり人数が多くなると大変など意見を得ることが出来た。本事業を進める事で達成したい。
	(④事業計画の妥当性)	概ね高い	同志社大学で地域創生に関する講師を務める外部関係者にインタビューを行った。その結果、ロジックモデルに関して対象者がわかりづらいなどの指摘があり事業計画書も含め修正を行った。修正版を元に実行すればある程度の実績を上げることが出来る。但し新型コロナウイルスの状況など未知数な部分も多々あるため、より多くの協力者を得ながら、常に深化させながら活動を行うべきであるという共通の認識をえることが出来た。上記を常に意識しながら本事業を進めて行く。

事業計画の確認

重要性（評価の5原則）について

本事業は世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域の集落の孤立解消を目的としており、そのための現時点での子どもたちの帰省率や地域課題、住民の思いをデーターやインタビューで検証することが評価において特に重要であると関係者間（五ヶ瀬自然学校、宮崎文化本舗、伊藤、大和田）で合意された。

今後の事業にむけて

事業実施における留意点

- ・ 内部スタッフ、外部関係者（住民を含む）との情報共有を密にしながら、常に事業評価を行いながら、修正・深化を繰り返して行く。
- ・ 情報発信は、本事業では非常に重要な要素である。なるべくわかりやすく、面白く、新鮮内にという3要素を心掛けたい。
- ・ 外国人を誘致する上では、人数が多くなり過ぎないように（オーバーツーリズム）注意し、新型コロナウイルスも含めた感染対策の徹底を行う。
- ・ なるべく多くの住民の参画および課題を一緒に解決する関係人口の拡大を図る。

添付資料

別添1: 事業計画書※修正された場合のみ添付 修正された場合にはその理由等も記す

別添2: 評価計画書

別添3: 事業実施スケジュール(評価項目「④事業計画の妥当性」が検討された結果として、必要に応じてスケジュールを作成添付ください)

別添4: ロジックモデル/セオリーオブチェンジなど(作成された場合のみ添付。必要の有無は資金分配団体の指示に基づきます。)

別添5: 調査データ等(適宜)